

スポンサー様

JOHOR International Jet Ski Challenge 2012

開催日

11月24・25・26日

出場クラス

Pro Runabout 4-Stroke Stock

Pro Runabout 4-Stroke Open

Endurance Runabout Open (75minutes+1 lap)

結果

・ Pro Runabout 4-Stroke Stock

Moto1 : 1位

Moto2 : 1位

Moto3 : 1位

Moto4 : 1位

・ Pro Runabout 4-Stroke Open

Moto1 : 1位

Moto2 : 1位

Moto3 : 1位

Moto4 : 5位

・ Endurance (75minutes+1 lap)

1位

総合

Pro Runabout 4-Stroke Stock

1位 (Champion)

Pro Runabout 4-Stroke Open

2位

Endurance (75minutes+1 lap)

1位 (Champion)

今回の JOHOR というレース会場は、マレーシアの中でも僕自身初めて行く場所で、首都クアラルンプールから車で 3 時間程の場所でした。今回は海ではなくほぼ淡水の河口でのレースでした。堤防もあったせいか水面は全く荒れず、強い風が吹いた時のみ洗濯機のように荒れました。使用艇は KAWASAKI ULTRA300X です。スタート方式はラバーバンド方式ではなくローリングスタート方式で、横並びの状態からマーシャルの旗の合図と共に、一斉に横一線でスタートするというものでした。

Pro Runabout 4-Stroke Stock

Moto1 はバッチリのタイミングでスタートする事ができ、ホールショットで 1 ブイを曲がっていく事ができました。その後は 2 位以下をどんどん離していく事ができ、エンジンを守りながら走る事ができました。

Moto2 ではアクセルを握るタイミングが少し遅れてしまい、2 位で 1 ブイを曲がりました。最初の 2・3 周のうちはコースが全く荒れないので 1 位に離されないように付いて行く事に専念し、レース中盤のコースが荒れ始めてくる頃に揺さぶりをかけてプレッシャーをかけていきました。全 10 周のうち、6 周目にチョイスコースでインとアウトに分かれ、ギリギリ抜く事ができ 1 位に浮上しました。その後は抜かされない程度にエンジンをいたわり、トップフィニッシュできました。

Moto3 ではアウェーの洗礼を受け（マレーシアの選手がフライングをしてもペナルティーを取らない・・・）1 周目のホームストレートをギリギリ 4 位で通過しました。水面はベタベタだったので、1 位はここぞとばかりに逃げていきます。一刻も早く 1 位を追いかけたいところですが、まずは前の 2 艇を抜かなくてははいけません。昨年、砂盃プロに教わったことを思い出し「前艇の後ろに付いた時は焦らずに追い抜くチャンスを待つ!!」を頭の中で何度も連呼し、4 周目には 2 位に上がりました。1 位とは 3~4 ブイ差ほど離れてしまっていたのですが、周回数を追うごとに詰めていきました。8 周目のバックストレートで追いつく事ができ、チョイスコースで分かれられました。合流では僅かの差で抜く事ができませんでした。そして最終ラップ、バックストレートエンドでほぼ並びかける事ができ、チョイス後の合流でなんとか前に出てトップに立ち、そのままトップフィニッシュできました。

Moto4 では 2 位で 1 ブイを曲がりました。やはり最初のうちは水面がフラットなので追いついて行く事に専念し、水面が荒れてくる中盤に勝負をかけました。僅かな相手のミスを突き、1 位に浮上します。その後はエンジンを温存しながらのゴールとなりました。

全ての Moto でトップフィニッシュし、レース後の厳しいテクニカルインスペクションも無事通過し、**2012 年度マレーシア インターナショナル チャンピオンシップス**で無事**プロランナバウト ストック チャンピ**ンを獲得する事が出来ました。

Pro Runabout 4-Stroke Open

Moto1 はスタートでターボ艇に行かれてしまうものの、なんとか 2 位につけて 1 ブイを曲がります。トップスピードが 10km 以上違う為ストレートでは離されてしまいますが、コースが割とテクニカルなコースであるため、コーナーで徐々に詰めていきます。レース中盤、相手のミスを誘いトップに躍り出ます。その後は徐々に 2 位以下を離していき、1 位でゴールをしました。

Moto2 でもスタートは上手く決まったもののターボ艇に先行されてしまい 2 位で 1 ブイを曲がります。今回はトップに立つまであまり時間がかかりませんでした。4 周目のチョイスで分かれ、合流ではアウトから並びかけホームストレートエンドの 2 点ブイでアクセルのリリースを 1 位の選手よりも遅らせた僕がギリギリ前に出ました。その後はエンジンを温存しながら走りトップフィニッシュをしました。

Moto3 もやはり 2 位で 1 ブイを曲がります。今回はブイが流れてチョイスがあまり使えなくなりましたが、なんとかレース中盤に 1 位に上がる事ができ、そのままゴールとなりました。

Moto4 は運よくスタートを切る事ができ、ホールショットで 1 周目を迎えます。しかしバックストレート手前のブイが大きく流れてしまっていて、僕がそのブイを曲がっている間に、そのブイを飛ばして走行して行った 2 位艇が僕を抜かして行きました。その為、バックストレートでは僕は 2 位になってしまいました。つまり僕を抜いていった選手はミスブイを犯し TOP に立ったのです。2 位になってしまった僕は、1 位の選手がミスブイ解消の為にイレイザーブイを曲がる間に抜こうと考えましたが、1 位の選手はイレイザーに向かわずホームストレートを抜けていきました。ブイは流れたままレースは続きましたが、僕は何度も TOP 艇に襲い掛かり 3 周目には 1 位に浮上できました。その後は危なげなく 1 位を走りぬきトップフィニッシュを果たしました。

僕は全ヒート 1 位でゴールした為、もちろん総合でも 1 位だと思っていました。ところが、こともあろうかりザルトを見ると Moto#4 が 5 位でゴールしたことになるのです。すぐにレースディレクターに説明をもらったところ、「僕がミスブイを犯し、1 周減のペナルティーを受けたと言うのです。流れたブイをしっかりと回った僕がミスブイで、ブイを飛ばしていった選手がミスブイ扱いでは無いと言うのです。」僕自身、レースが終わった今でさえ理解できません。しっかりとブイを回った僕がミスブイを取られ、ブイを飛ばしていった選手がミスブイを取られなかったのです。いくらプロテスト（抗議）をしても結果は変わりませんでした。

その為、全ての Moto でトップフィニッシュをしたのにも関わらず、**総合 2 位**と言う結果に終わってしまいました。自分的には、レース展開には満足していますので、これもアウエーの洗礼と捉え、次のシリーズでしっかり借りを返そうと思います！

Endurance R/A Open

エンデュランス（耐久レース）は今まで負けたことがありません。今回は今までとは違い沖に向かって行かず、川を上っていくため常に水面はフラットです。今までは波の中をいかに上手く走らせるかが勝敗を分けていましたが、今回はピットインを含めた給油をいかに早くできるか、給油タイミング（ピットの混雑回避）、燃料をセーブした走りの3点が鍵となりました。スタート前に給油や、燃料のセーブ方法等についてチーム内で入念にミーティングし、いざスタートです。1周目は2位でホームストレートを抜け、快調に走っていきます。スタートから20分後には4位まで順位を下げてしまいましたが、それは燃料をセーブして走っていた為で、ファンの方達をドキドキさせてしまいましたが、この順位は想定内の戦略でした。その後、TOPの3艇が次々に給油に入った為、その間にTOPに立ち、アドバンテージを作っていきます。スタートしてから50分後、予定通りの給油に入りました。その際、2位との差は半周、ピットストップには十分余裕がありました。ピットアウト時に2位を見ると、50m差の僅差まで来ていました。しかし、作戦は成功し無事にTOPのままコースに戻ります。その後は最後まで1位を守り抜き、**2012 マレーシア インターナショナル チャンピオンシップス エンデュランス チャンピオン**を獲得することができました。

レースを終えての感想

プロランナバウトクラスへの公式戦参戦は、全日本選手権の第6・7戦の蒲郡（2012年7月）以来していなかった為、今回は来月に控えたKing's Cup（開催地：タイ）に備えての良いレース経験ができたと思います。また、常に後ろから抜いていくというレース展開だったため、追い上げの実戦練習ができました。これは、通常の練習では体験できない経験ですので、とても良い実践練習になったと言えます。

アウエーの洗礼については、UAEシリーズでたくさん経験しているため、怒りで自分を見失ってしまうようなことはなくなりました。ただ、今後は誰も何も言えないようなレースをしていきたいと思います。

また、今回のマレーシアシリーズの最終戦には、表彰式、盾・賞金授与にマレーシアの王子様（国王の長男：皇太子様）がいらっしゃいました。王子様からの直接の授与、握手、お褒めのお言葉など、とても光栄で正直緊張してしまいました。TV撮影、取材も沢山入りましたし、王子様を一目見ようと国民の方達が表彰式会場を沢山取り巻いていたのには圧巻でした。ウエルカムパーティー、表彰式パーティー、インターナショナル選手全員へのお土産のご用意、沢山の観客等、本当に盛大な国際大会でした。

来週にはKing's Cupが控えています。日本とマレーシアでは20度近く寒暖差がある為、今後1週間は体調管理をしっかりとし、万全な状態でレースに臨みたいと思います。また、King's Cupでは自分の全てをぶつけて、優勝目指して頑張りたいと思います。

今後とも応援の程宜しくお願い致します！！



Team WPS Japan

#1 小原 聡将